

# 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する 実態調査 報告書(概要版)

## 1. 調査の目的

- ・「令和元年6月死亡事例に係る検証報告書」において、「思春期・若年期の女性を対象とした支援制度の創設」の提言を受けている。
- ・現在十分ではない思春期・若年期に焦点を当てた支援の取組を今後検討していくに当たり、支援の対象となり得る女性が抱える悩みや困りごと、支援ニーズを把握するために実態調査を実施。
- ・実際に困難な経験がある女性とその女性を支援している団体を対象とした「ヒアリング調査」と困りごとや悩みを聞く「アンケート調査」との2種類の調査を実施。

## 2. 調査の実施内容

### (1)若年期の女性を対象とした支援に関するヒアリング等調査

項目	内容
調査対象者	①女性当事者 4名 (困難な経験がある女性) ②支援団体 6団体 ・DV等被害女性の支援団体 ・養護教諭 等
調査期間	令和2年10月12日～12月8日

### (2)札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

項目	内容
調査対象者 (回答数)	①公立高等学校女子生徒(石狩管内) 781名 ②公立高等支援学校女子生徒 55名 ③19歳～24歳女性(札幌市) 836名
調査期間	令和2年12月13日～令和3年1月4日

# 目

# 次

1. 実態調査結果まとめ	p.1
2. 若年期の女性を対象とした支援に関するヒアリング等調査	
(1) 調査の概要	p.2
(2) ヒアリングの内容	p.3
3. 思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査	
(1) 調査の概要	p.6
(2) 調査協力者の概要	p.7
(3) 不安に感じていること	p.8
(4) 学校での体験について	p.9
(5) 子ども時代に過ごした家庭での体験について	p.10

(6) 職場・アルバイト先での体験について	p.11
(7) 結婚・交際相手との関係での体験について	p.12
(8) 相談相手について	p.14
(9) 相談窓口の認知度について	p.15
(10) SNSやアプリなどで出会いを求める書き込み について	p.16
(11) 「嫌な体験」と自尊感情について	p.17
(12) 家庭の影響について	p.17
(13) 自由記述について	p.18

# 1. 実態調査結果まとめ

## ■若年期の女性を対象とした支援に関するヒアリング等調査

### ○家族との関係や家庭の状況に問題を抱えている。

- ・「家庭の困難」の具体的な内容として「両親の不仲、虐待、育児放棄、貧困、生活保護世帯、親の再婚、親がアルコール依存症」などが挙げられる。

### ○妊娠、中絶、援助交際など性の問題に関わることにつながりやすい。

- ・高1でネットで知り合った人と付き合い、妊娠。その後中絶をした。
- ・ヒアリング対象者中4名中3名が未成年でキャバクラやデリバリーヘルスなどの性風俗、3名が援助交際の経験があった。

### ○困っているという意識がない。

- ・子どもの頃からの(困難な)体験から、耐性がついている。
- ・困っているという意識を持てなければ、相談につながらない。
- ・「自分が困難な状態か、問題なくしっかりやれている状態なのかわからず不安を抱えている。」

### ○不安、自己否定感を持っている

- ・「自信がない子が多い」、「『幸せ』や『満たされていること』がどうということかわからない。常に不安を感じている。」
- ・「『自己肯定感が低い』のではなく『自己否定感』を強く持っている」

## ■思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

- 学校、家庭、職場、結婚・交際相手等に関連して、嫌な体験をした3割～7割の女性がどこにも相談できていなかった。
- 特に家庭や結婚・交際相手との関係での嫌な体験における相談できなかった割合は、それぞれ7割、4～5割と高い回答であり、自分に身近な問題ほど誰にも相談できない傾向がある。
- 家庭での嫌な体験同士の相関関係を検討したところ、家計の問題が他の全ての問題(両親の不仲、両親間での暴力など)にも関連していた。
- 相談相手は、親や友人が選ばれることが多く、公的な相談機関が選ばれることが少ない。また、公的な相談機関の認知度は極めて低い状況にある。

- 一般女性における結婚・交際相手との関係での嫌な体験で最も多いのは、相手からの物理的・精神的な支配で約5割、次いで金銭的な問題で4割弱、セクハラ・性被害と望まない性行為・妊娠がそれぞれ約2割。
- 「神まち」や「パパ活」などSNSやアプリなどで出会いを求める書き込みをしている人が、回答者の周りにいるか聞いたところ、1人以上いると答えた割合は、一般女性で約2割、高等学校で1割。
- 援助交際をしている女性に対し、4割強の回答者が「支援が必要だと思う」と回答。

- 学校、家庭、職場、結婚・交際相手その他における嫌な体験が自尊感情の低下と関連していた。

- 家庭で嫌な体験をしていると、他の状況においても嫌な体験をしている傾向がみられた。
- 「家庭での不安」が高いと、他の様々な不安も高くなる傾向が見られた。特に「相談相手や頼れる人がいないことへの不安」と強く関連しており、本来有力な相談先となるはずの「家庭」における不安が強い場合に、相談相手がいなくなり誰にも相談することなく、自分一人で問題を抱え込むことにつながるのではないかとと思われる。

## 2. 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関するヒアリング等調査

### (1)調査の概要

- ・調査期間 令和2年10月12日～令和2年12月8日
- ・調査対象者 ①支援団体 6団体  
②女性当事者(困難な経験がある女性) 4名

支援団体	団体概要
団体A	若年女性を主対象として支援活動を行っている法人。
団体B	DV等の被害に遭った女性等への支援を行ってる法人。
団体C	市内高等学校養護教諭。
団体D	若年層の女性が気軽に相談できるLINE相談の運営を行ってきた法人。
団体E	未成年の緊急一時避難所(シェルター)を開設、運営している法人。
団体F	少年院出院者を対象とした相談対応、少年院への講話活動を行っている団体。

女性当事者	対象者概要
Aさん	<ul style="list-style-type: none"><li>・20代。</li><li>・児童養護施設での生活歴あり。</li><li>・高校中退後、夜の仕事に就く。</li><li>・現在は結婚し、3児の母。</li></ul>
Bさん	<ul style="list-style-type: none"><li>・20代。</li><li>・両親が学費を出してくれなかったため、様々なアルバイトをして学費を賄う。</li><li>・高校卒業後、夜の仕事に就く。</li><li>・現在は1児の母。</li></ul>
Cさん	<ul style="list-style-type: none"><li>・40代。</li><li>・定時制高校中退後、夜の仕事に就く。</li><li>・その後、介護の資格を取得したことを契機に現在の福祉の仕事に就く。</li><li>・自身の経験を踏まえて、女性支援団体による若年女性支援の活動にも参加。</li></ul>
Dさん	<ul style="list-style-type: none"><li>・10代大学生。</li><li>・家族との折り合いが悪く、家に居場所がないと感じている。</li><li>・援助交際をしており、心療内科に通院。</li></ul>

## 2. 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関するヒアリング等調査

### (2) ヒアリングの内容

#### ① 困難を抱えている女性について

- ・2支援者から(外面的な)「共通の特徴はない」との回答を得た。
- ・一方で、ほとんどの支援者が共通点として挙げたのが、彼女らの状況として「家庭に何らかの困難(問題)を抱えている」(支援者C)ことであった。
- ・「皆、何らかの被害体験をしていること」(対象者A)も挙げられている。

#### ◆ 家族との関係、家庭の状況

- ・対象者全員が、家族、特に父親や母親(あるいはこれら両方)との関係が良好ではなかった。
- ・「あの※事件は子どもが亡くなったから顕在化しただけ。マスコミなどで『あの母親・父親は特別な悪人』というような扱われ方がされているが、そうではなく、虐待を受けていたが、たまたま亡くならなかった、結果、認知されてこなかった人はたくさんいる」(支援者A)
- ・支援者からは「家庭の困難」の具体的な内容として「両親の不仲、虐待、育児放棄、貧困」(支援者C)、「親がアルコール依存症」(支援者F)などが挙げられている。
- ・対象者3名が、「家庭は経済的に困窮していた」、2名が、「親が教科書代や給食費など、通学にかかる費用を払っていなかった」と語った。
- ・対象者からは、自身の親について「父親は24時間お酒を飲んでいた」「両親はお金にルーズ、ケンカばかり、母の性格がきびしい」「姉妹で扱いを差別する」「親からお金を無心される」という家族の状況が語られた。

※令和元年6月に札幌市で当時2歳の女兒が死亡した事例

#### ◆ 性のこと、すすきのについて

- ・「高1でネットで知り合った人と付き合い妊娠。その後中絶をした」(対象者B)
- ・対象者4名中3名が未成年でキャバクラやデリバリーヘルスなどの性風俗業、3名が援助交際の経験があった。
- ・「キャバクラのお姉さんたちはとても優しくかった」(対象者A)、「勤め先の店長には色々相談に乗ってもらった」(対象者C)、「札幌・北海道の困難を抱えた女性はすすきのに吹き寄せられている」(支援者B)

#### ◆ 「困っている」という意識がない

- ・対象者たちは、高校生までは、「家計の困窮」、「親が通学にかかる費用を払わない」、「身体的・言葉による暴力や姉妹間の差別」、「高校中退」、卒業後は、「未成年で性風俗に従事」、「援助交際」、「リストカット」など、客観的に見ると困難を抱えている状況であったが、4名中3名が、自分から相談や支援を求めることはしていなかった。その理由として、対象者Cは「子どもの頃からの(困難な)体験から、耐性がついている」ため、「困っているという自覚がなかったから」と語った。
- ・「『自分』を主にして考えることに慣れていないため自らの『被害』『課題』を認識していない。逆に、ひどい体験をしていればしているほど、聞いても『問題はない』という人が多い」(支援者A)

#### ◆ 不安、自己否定感を持っている

- ・「自信がない子が多い」(支援者C)、「『幸せ』や『満たされること』がどういうことかわからない。常に不安を感じている」(支援者F)
- ・「『自己肯定感が低い』のではなく『自己否定感』を強く持っている」(対象者C)

## 2. 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関するヒアリング等調査

### (2) ヒアリングの内容

#### ② 支援について

##### ◆ 支援、アプローチの姿勢

###### <寄り添う姿勢、「友達」になる>

- ・4支援者から、ほぼ同様に「相手の関心・状態に寄り添うこと。そして時間をかけて信頼関係を築いていくことが大事」との意見が出された。「支援・被支援という一方向の関係性ではなく『友達』になること」(支援者C)

###### <長期間にわたってつながりを保つ>

- ・「『これで支援を終えることができた』というような『きれいな形』はない」(支援者A)、「嫌な記憶はトラウマとなってぬぐえない。一生付き合っていく」(支援者C)

###### <「対象者の類型化」「対応の定型化」はしない>

- ・「『対象者の類型化』『対応の定型化』は間違いのもと。対象者に真摯に、きちんと向き合うことを怠ってしまうので」(支援者A)

##### ◆ 支援①アウトリーチについて

###### <多様なコミュニケーション手段が必要>

- ・対象者からは「SNSで見ず知らずの人に相談できない。直接会って相談したい」という意見の一方、「仲良くなるまではLINEがいい。電話はしたくない」との声もあり、多様なコミュニケーション手段が必要と考えられる。

###### <SNSの活用方法>

- ・支援者Bが「若年女性に対する入口はSNSではないか」と述べたように、SNSは若い世代では、有力なコミュニケーション手段であると考えられる。
- ・また、支援者Cは「支援の取組を広げるためには、誰かが支援によって『いい思いをする』ことが大事。それがSNS等により自然と拡散されていくと思う」と述べている。

##### ◆ 支援～②居場所

###### <気軽に行ける・相談できる場所>

- ・支援者Bから「相談の場、取組の広告塔として、すすきの等に気軽な雰囲気のカフェができれば良い」、対象者からも「決まった場所、時間に開かれるカフェ・スナック」で「ママさんのような人に声をかけてもらえる」、その横に、必要に応じて支援につなげる役割のスタッフがいる、という相談の場のイメージが語られた。
- ・対象者2名からも「安心して寝泊まりできる場所」の必要性が挙げられたが、「規則が多いと窮屈に感じて使わない」「自分の部屋のように気兼ねなく過ごせる場所がいい」との意見があった。

## 2. 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関するヒアリング等調査

### (2) ヒアリングの内容

#### ② 支援について

##### ◆ 支援～③ 自立支援

- ・対象者からは、小学校から授業をあまり受けてこなかったので「漢字の読み書きが不自由なのがつらい」、「わからないことが多い」との言及があった。
- ・少年院出院者支援を行っている支援者Fからも「出院者には、障がいを疑われる人やグレーゾーンにいる人、発達障がいの人も多いので、自立をサポートする教育カリキュラムや仕組みが必要」との意見が出されている。

##### ◆ 支援～④ 関係機関との連携

###### <連携のあり方>

- ・相談があればすぐに動けるような姿勢・仕組み・チーム体制が必要」(支援者B)、「関連の関係者・窓口・部署間で情報を共有して支援を途切らせないことが大切」(支援者C)、「『自立』はうまく行かないこと、紆余曲折があることが普通である。それを前提とした『何があっても誰かがどこかにつなぐ』重層的なアフターケアのあり方・仕組みが必要」(支援者F)と述べられている。
- ・「札幌市等行政には、他の関係者につないでもらえるコーディネート機能、ケース会議の参集を呼びかける役割を担ってほしい」(支援者B)

###### <学校との連携>

- ・「教科書代や給食費の未払いがあったなど、『公教育の場は支援のきっかけをつかむ場』としてとても重要」(支援者C)

#### ③ その他

- ・夜ごはんはテーブルに置いてある1,000円程を持って、弟と一緒にポテトチップスやチョコレートを買って食べていた。
- ・お金が必要でも親には何も言えなかった。必要な物も買えないので万引きをした。思っていたよりも簡単だった。
- ・家に帰りたくないときは、Twitterで知り合った男の人と会うこともある。怖い思いをしたこともあるけど、家に帰りたくない気持ちのほうが強い。
- ・しょっちゅうリスカしてた。「リスカをするのは快感」、「いつ死んでもいい」というか「死んだらラッキー」と思っていた。
- ・気づいた時には妊娠6か月。心の準備もできておらず「私がママなんて死にたい」としか思えなかった。「ひどい」と思われるだろうけれど産まれるまで「流産してしまえばいいのに」と思っていた。冬にわざと外に長い時間立っていたり、滑って転んだりもした。不安だった。「育てる」ということがどういうことかわからなかったから。けれど、子どもを産んだ瞬間母性でいっぱいになった。本当にかわいくて「絶対に守る」と思った。
- ・あの※お母さんと私は何も変わらない。私も一人で妊娠・出産していたら殺してしまうことだってあったのかもしれない。事件のことはすごく色々考えた。2歳まで育てるのは大変なこと。お母さんには必ず愛情があったはず。誰も助けてくれなくて、寂しくて、そこに来てくれたのが男の人だったのでは。
- ・困難を抱えた女の子たちは「自分で決めたこと」を否定され続けてきた。「選択をさせてもらう」「選択を尊重される」という経験がほとんどない。

※令和元年6月に札幌市で当時2歳の女兒が死亡した事例

### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (1)調査の概要

##### ①調査期間

令和2年12月13日～令和3年1月4日

##### ②調査実施

- ・高等学校、高等支援学校の女子生徒及び19歳～24歳の札幌市内に居住する女性を対象として、10代後半から20代前半の思春期・若年期の女性がどのような困りごとや悩みを抱えており、その困りごとや悩みをどの程度周囲に相談できているのかを把握することを目的に実施。
- ・調査は、札幌市と北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターが共同で実施。



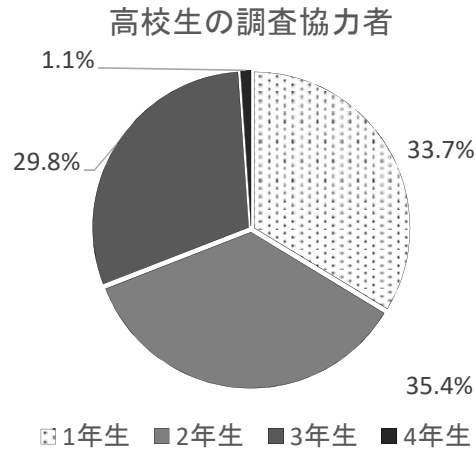
	①公立高等学校女子生徒	②公立高等支援学校女子生徒	③一般女性
調査対象者	18,769名 (令和2年5月1日時点)	153名 (令和2年5月1日時点)	3,000名 (住民基本台帳から抽出)
回収率	781名 (回収率:4.2%)	55名 (回収率:36.0%)	836名 (回収率:27.9%)
調査方法	・無記名によるアンケート方式 ・二次元コード付き調査依頼チラシを高等学校を通じて配付し、WEBで回答を受ける。	・無記名によるアンケート方式 ・調査票を高等支援学校を通じて配付し、郵送で回答を受ける。	・無記名によるアンケート方式 ・調査票を郵送し、郵送及びWEBで回答を受ける。



### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

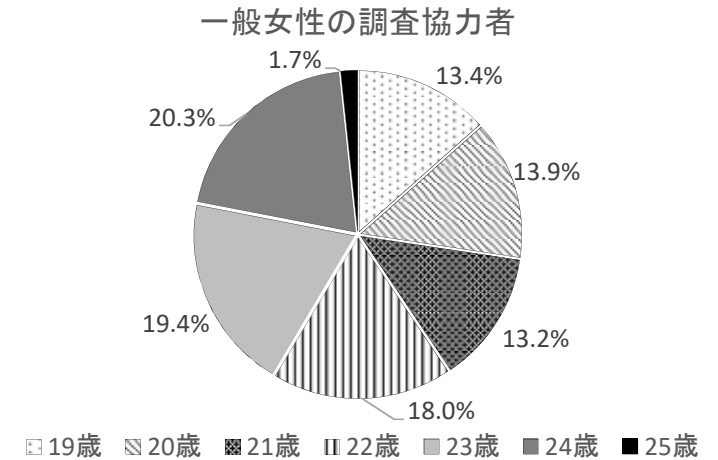
#### (2)調査協力者の概要（問1 関係）

##### ①高校生



	1年生	2年生	3年生	4年生	計
高等支援学校	16 29.6%	25 46.3%	13 24.1%	0 0.0%	54
高等学校	262 34.0%	267 34.6%	233 30.2%	9 1.2%	771
計	278 33.7%	292 35.4%	246 29.8%	9 1.1%	825

##### ②一般女性



19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	計
112 13.4%	116 13.9%	110 13.2%	150 18.0%	162 19.4%	169 20.3%	14 1.7%	833

### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (3)不安に感じていること（問3関係）

- 「不安に感じていること」に関して、高等学校・高等支援学校では「友だちなどの対人関係」で、一般女性では「生活費や学費」「アルバイトや仕事のこと」で不安を感じているとする回答の割合が高かった。
- 「自分の病気や体調のこと」については、高等学校・高等支援学校・一般女性すべてにおいて不安を感じているとする回答の割合が比較的高かった。

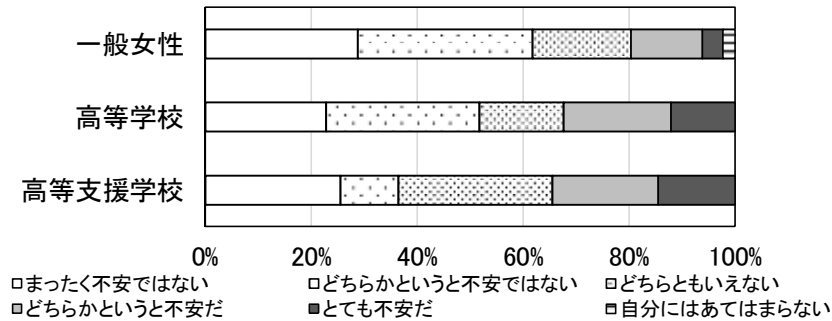


図3-3 友だちなどの対人関係

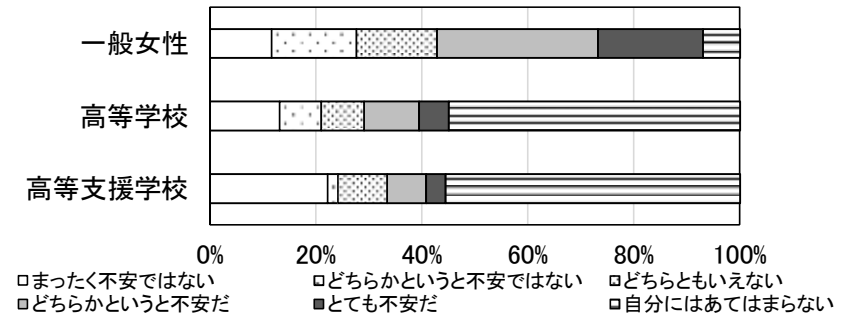


図3-7 アルバイト・仕事のこと

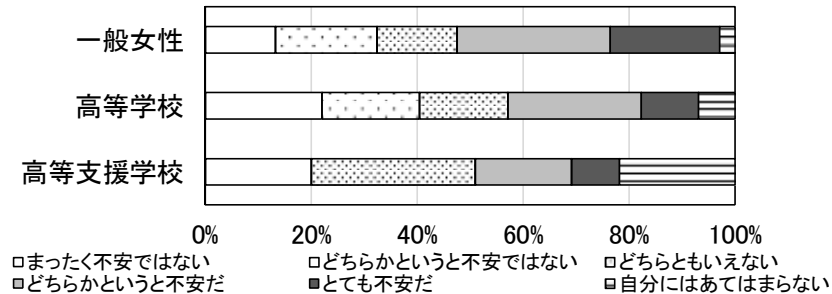


図3-6 生活費や学費のこと

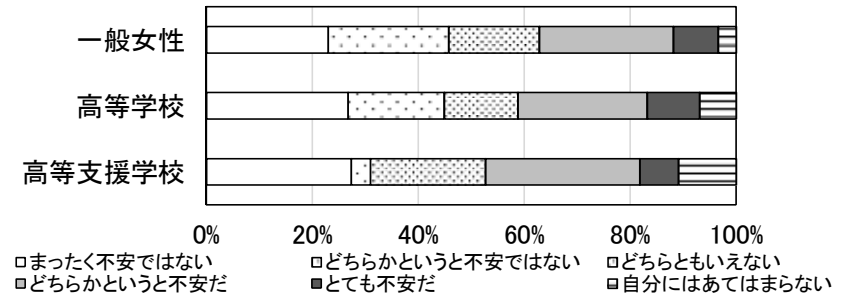


図3-8 自分の病気や体調のこと

### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (4)学校での体験について（問5 関係）

- 学校での嫌な体験については、1度以上あると答えた者の割合は7割前後。
- セクハラや性被害は1～2割前後である一方で、セクハラ・性被害が起きる場合は、教師とのトラブルやいじめ、人間関係のトラブルも同時に起きている場合もある。
- そうした嫌な体験をしても、高等学校と一般女性では4割の者は相談していなかった。

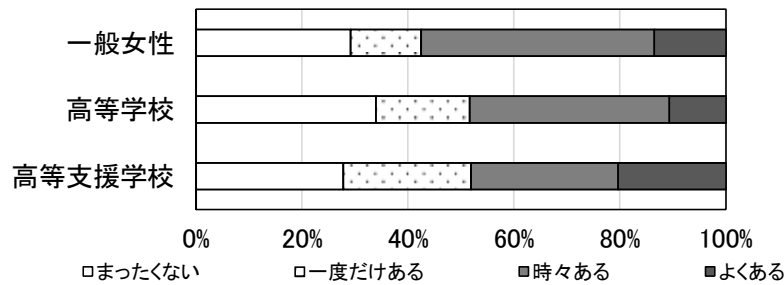


図5-1 学校で今でも思い出すような嫌な体験

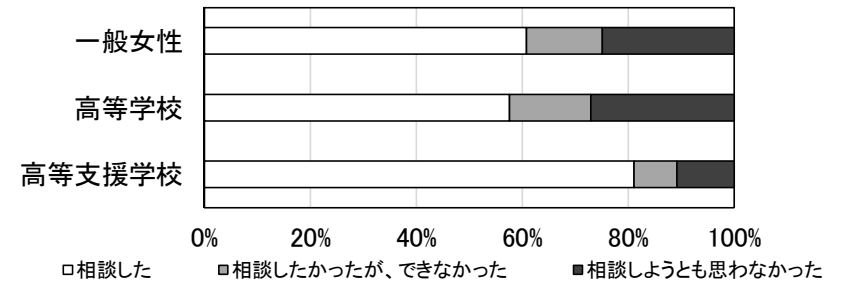


図5(3) 相談しましたか

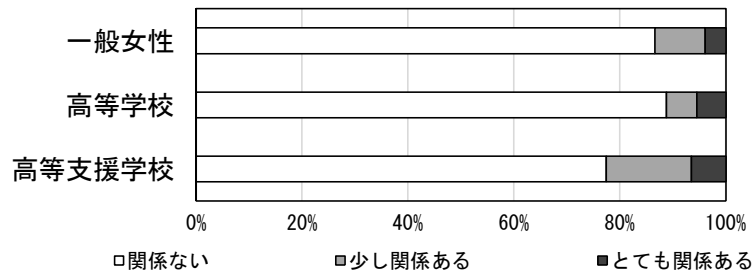


図5-オ セクシュアル・ハラスメントや性的な被害

### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (5)子ども時代に過ごした家庭での体験について（問6関係）

- 家庭での嫌な体験については、1度以上あると答えた者の割合は4～5割。
- 家計の問題が他の全ての問題(例:両親の不仲、両親間での暴力など)にも関連していた。
- そうした嫌な体験をした者であっても、高等学校と一般女性の7割強は相談していなかった。

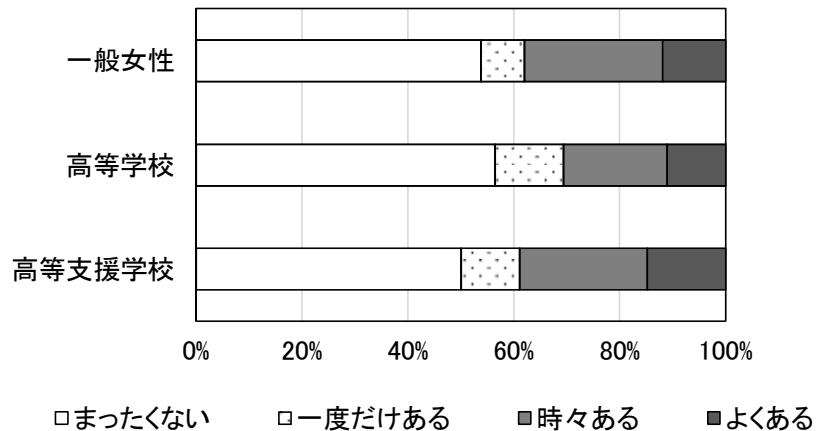


図6-1 家庭で今でも思い出すような嫌な体験

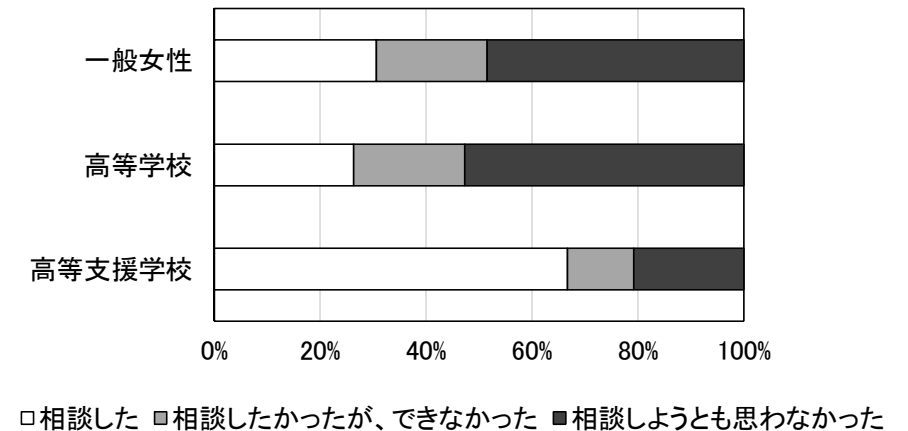


図6(3) 相談しましたか

### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (6)職場・アルバイト先での体験について（問7関係）

○職場・アルバイト先での嫌な体験については、一般女性で約6割の者が1度以上あると答えていた。  
 ○内容については、それ以外の人間関係のトラブル、パワハラが多い。  
 ○そうした嫌な体験をしても、一般女性の約3割の者が相談していなかった。

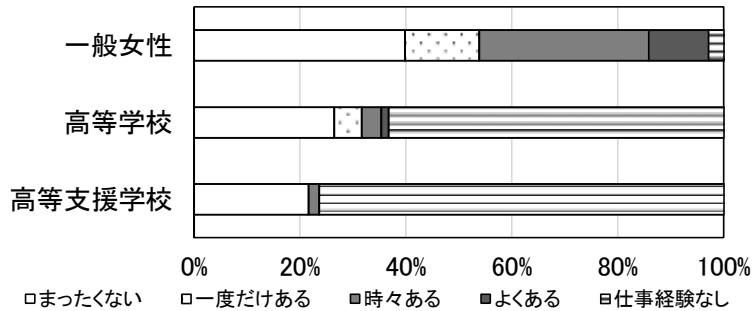


図7-1 職場で今でも思い出すような嫌な体験

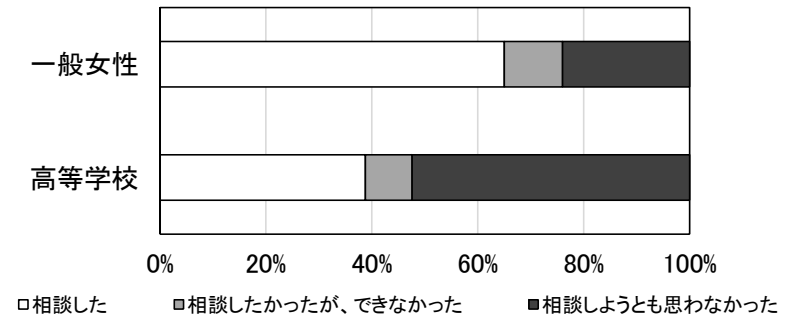


図7(3) 相談しましたか

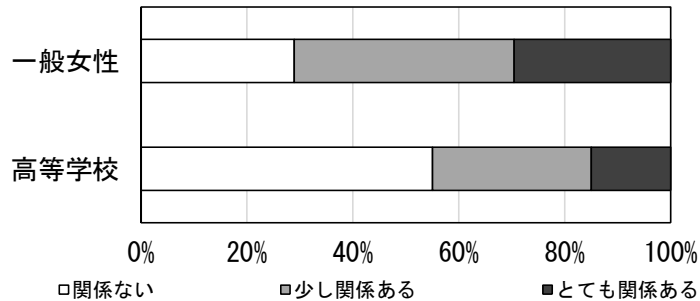


図7-イ いじめ以外の人間関係のトラブル

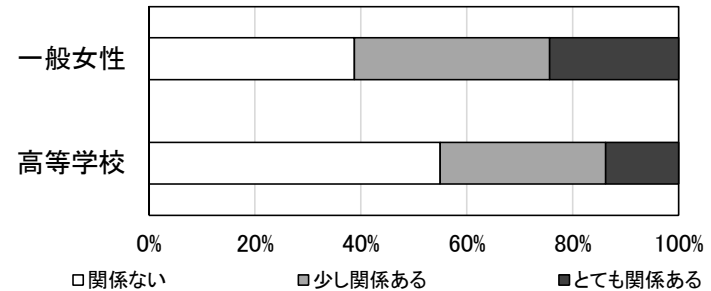


図7-ウ 上司・同僚からのパワハラ

### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (7)結婚・交際相手との関係での体験について（問8関係）

○結婚・交際相手との関係での嫌な体験については、1度以上あると答えた者の割合は一般女性で約3割、高等学校で約2割、高等支援学校で約1割であった。

○そうした嫌な体験をしても、一般女性では4割弱、高等学校で5割強の者が相談していなかった。

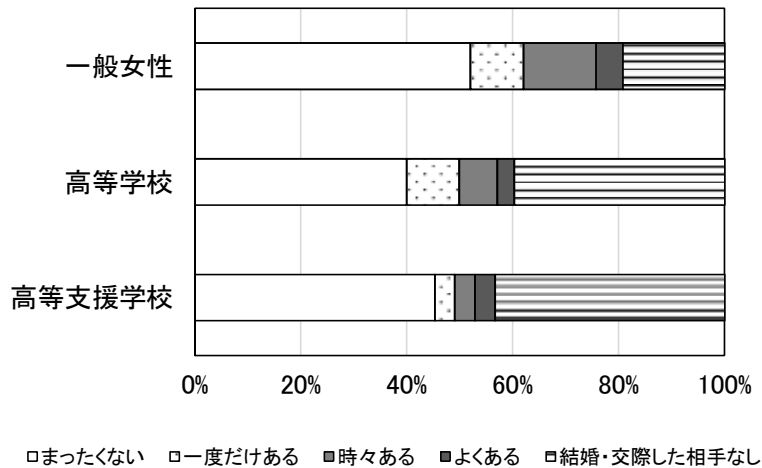


図8(1) 結婚・交際相手との関係で今でも思い出すような嫌な体験

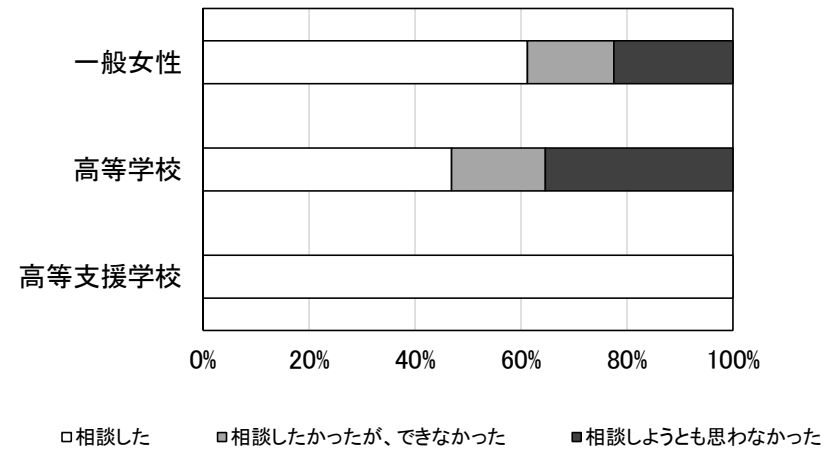


図8(3) 相談しましたか

### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (7)結婚・交際相手との関係での体験について（問8関係）

○一般女性で、嫌な体験の内容に関して最も多いのは、相手からの物理的・精神的な支配で約5割、次いで金銭的な問題で4割弱、セクハラ・性被害と望まない性行為・妊娠が同程度で約2割であった。

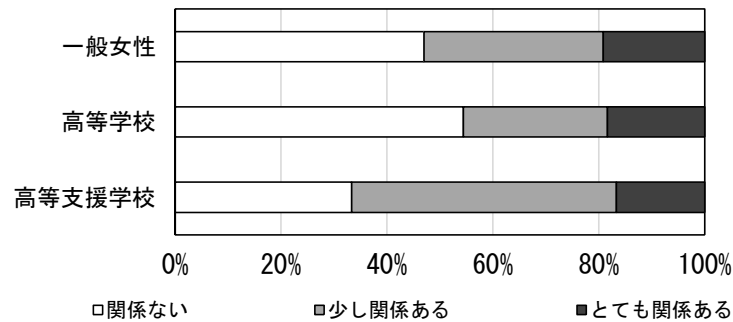


図8-イ 相手からの物理的・精神的な支配

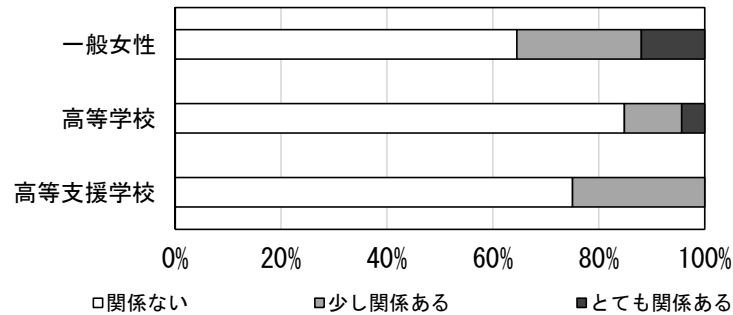


図8-ウ 金銭的な問題

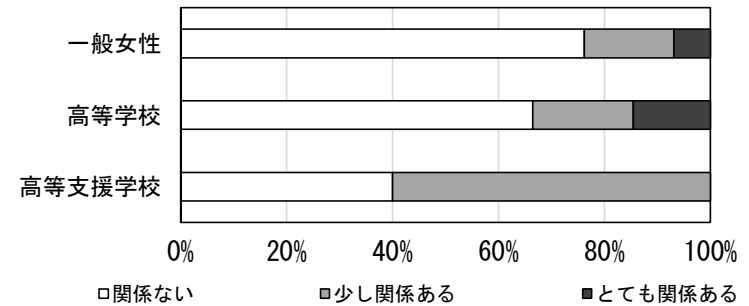


図8-エ セクシュアル・ハラスメントや性的な被害

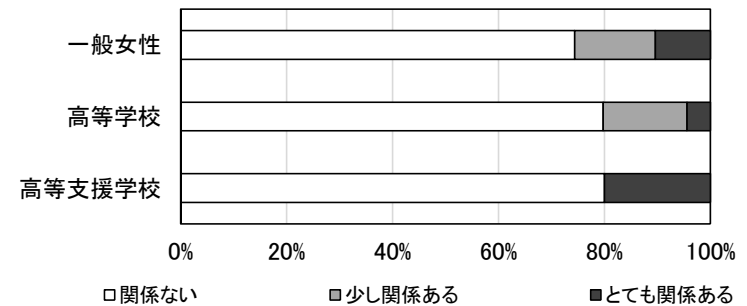


図8-オ 望まない性行為・妊娠

### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (8)相談相手について（問3、問5～9関係）

- 相談相手に関しては、いずれの相談も親や友人が選ばれることが多く、公的な相談機関が選ばれることは少なかった。
- 相談相手や頼れる人がいないことについて不安があると答えた割合は、一般女性では2割弱、高等学校、高等支援学校では2割。

		学校			家庭			結婚・交際相手		
		まったく ない	少しした	たくさん した	まったく ない	少しした	たくさん した	まったく ない	少しした	たくさん した
親	高等支援学校	22.2%	22.2%	55.6%	38.5%	23.1%	38.5%		33.3%	66.7%
	高等学校	16.7%	33.7%	49.7%	47.7%	29.5%	22.7%	54.1%	24.3%	21.6%
	一般女性	16.5%	32.2%	51.3%	44.8%	31.4%	23.8%	44.2%	32.6%	23.3%
友人	高等支援学校	39.1%	43.5%	17.4%	83.3%	8.3%	8.3%	40.0%	20.0%	40.0%
	高等学校	18.2%	40.1%	41.8%	34.1%	36.4%	29.5%	11.0%	28.8%	60.3%
	一般女性	20.0%	40.3%	39.7%	24.1%	55.6%	20.4%	6.7%	35.1%	58.2%
公的な 相談 機関	高等支援学校	88.9%	11.1%		90.0%		10.0%	100.0%		
	高等学校	93.8%	5.5%	0.7%	88.4%	4.7%	7.0%	94.5%	5.5%	
	一般女性	95.6%	3.4%	0.9%	93.1%	4.9%	2.0%	95.7%	0.9%	3.4%

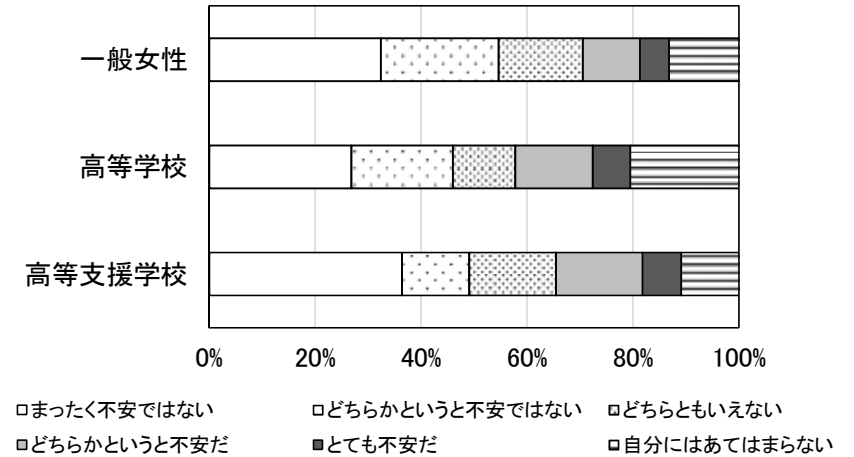


図3-9 相談相手や頼れる人がいないこと

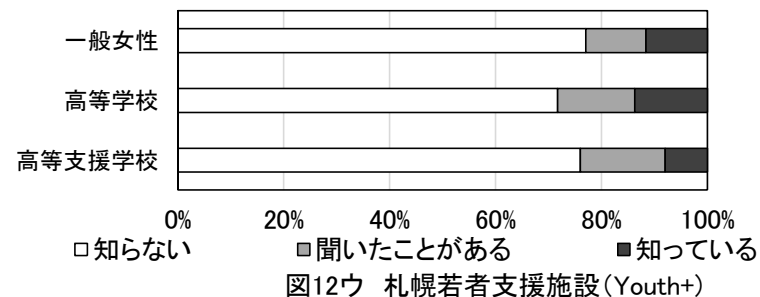
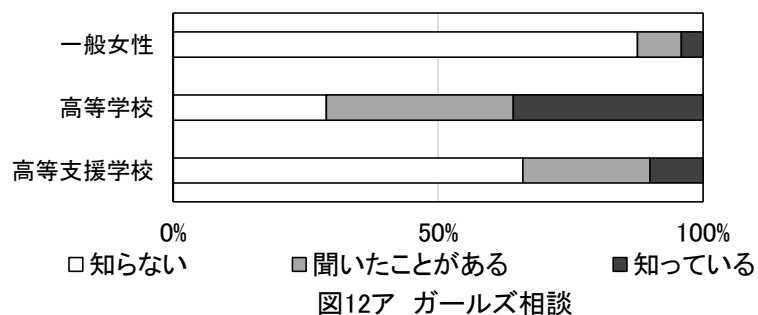
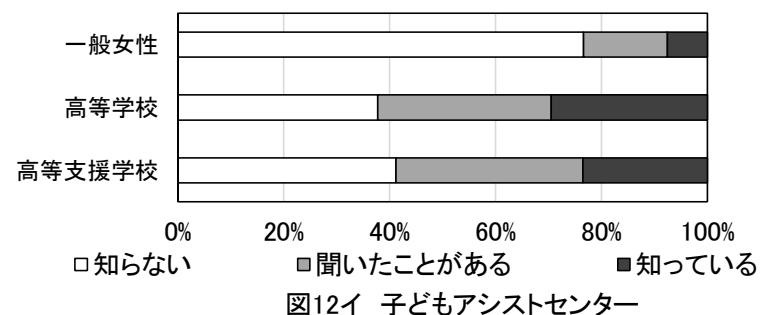
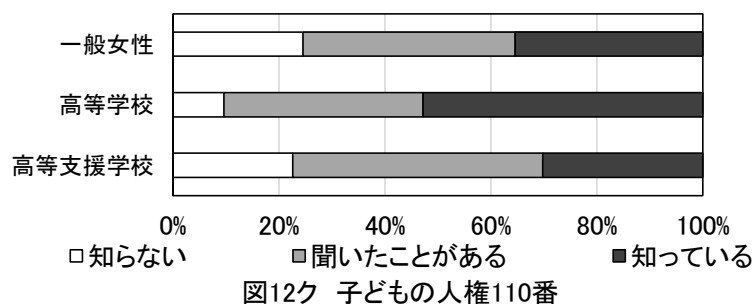


### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (9) 相談窓口の認知度について（問12関係）

- 公的な相談窓口で最も認知されているのは、子どもの人権110番であり、高等学校で5割強、一般女性で4割弱が知っているという回答。
- 高等学校では、次いでガールズ相談（4割弱）、子どもアシストセンター（3割）を知っていると答えた割合が高いが、5割未満となっている。
- 一方、一般女性については、他の相談窓口を知っていると答えた割合は1割前後である。

【相談窓口】ガールズ相談、子どもアシストセンター、札幌市若者支援（Youth+）、性暴力被害者支援センター北海道（SACRACHさくらこ）、札幌市配偶者暴力相談センター、北海道立女性相談援助センター、女性の人権ホットライン、子どもの人権110番



### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (10) SNSやアプリなどで出会いを求める書き込みについて（問10関係）

- 「神まち」や「パパ活」について、高等学校、一般女性の6～7割が意味を知っていると回答。
- 周りで神まち・パパ活といった書き込みをした人が1人以上いると答えた割合は、一般女性で2割弱、高等学校で1割。
- 一方、高等学校、一般女性で「問題ない」と答えたのは1割前後で、4割強が「支援が必要だと思う」と答えていた。

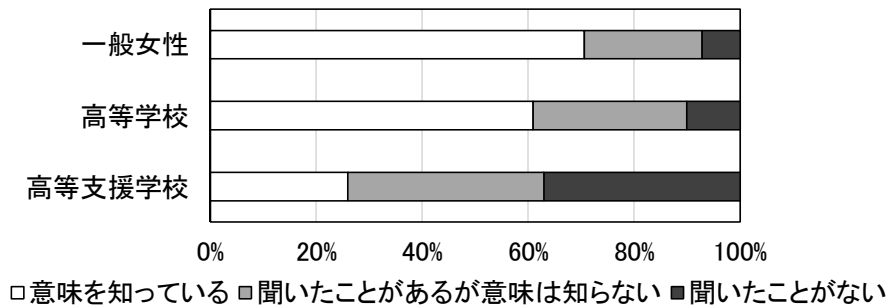


図10(1) 神まち・パパ活という言葉を知っていますか

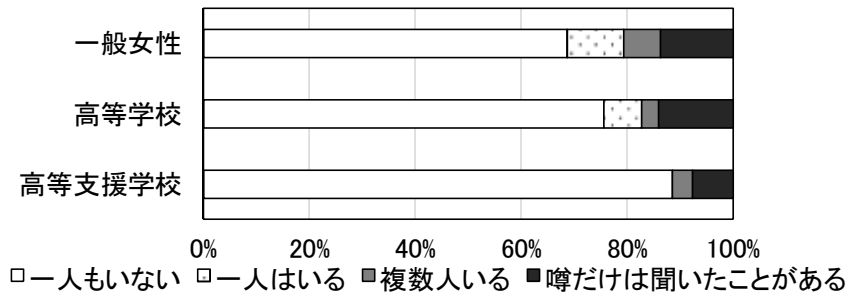


図10(2) 周りで神まち・パパ活といった書き込みをした人

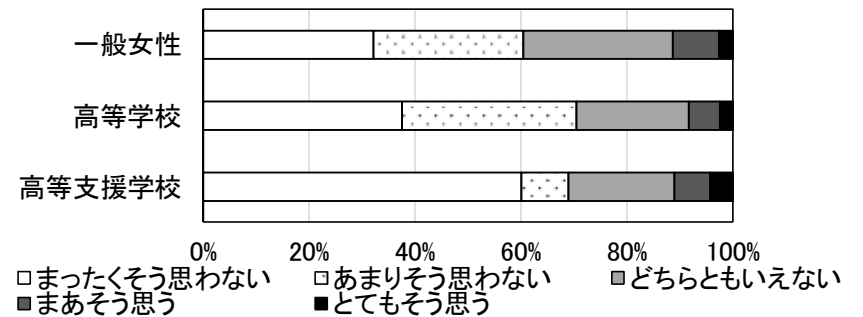


図10(4)イ 問題ないと思う

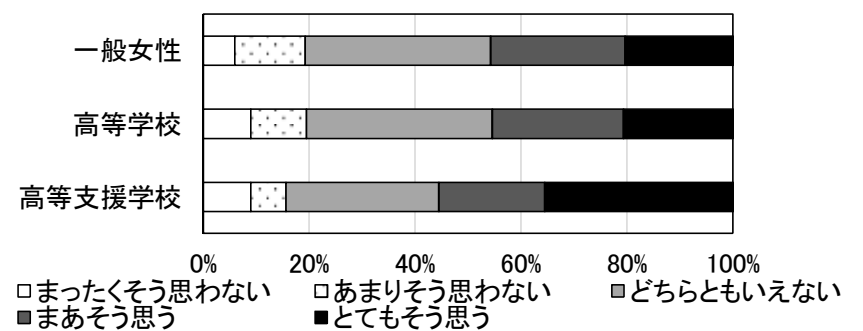


図10(4)オ 支援が必要だと思う

### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

#### (11)「嫌な体験」と自尊感情の関係について（問11関係）

- 学校、家庭、職場、結婚・交際相手その他における「嫌な体験」と「自尊感情」の関係は、数値自体はそれほど高くはないものの、嫌な体験が自尊感情の低下と関連していた。
- 特に、「学校」、「家庭での嫌な体験」は、一般女性、高等学校、高等支援学校すべてで自尊感情の低下と関連しており、特に学校での嫌な体験は、卒業後一定期間経過している一般女性において、最も関連が高かった。

#### (12)家庭の影響について（問3、問5～9関係関係）

- 「家庭での嫌な体験」と「他の場所、人との関係における嫌な体験」の関係では、高等支援学校と高等学校では、家庭で嫌な体験をしていると学校や学校・家庭・職場・交際相手以外のその他の人との関係でも嫌な体験をしている傾向がみられた。
- 一般女性では、すべての場所、人との関係において関連がみられた。
- 不安なことに関して、「家庭での不安」が、「他の不安」とどのような関係にあるのかを検討したところ、家庭での不安が高いと、他の様々な不安も高くなる傾向がみられた。
- 特に高等支援学校では生活費・学費、自分の病気・体調、相談相手や頼れる人がいないことへの不安と強く関連していた。
- 高等学校については、突出して強い関連があるわけではないが、すべての不安とまんべんなく関連していた。
- 一般女性については、不安全感と関連している一方で、特に生活費のこと、相談相手や頼れる人がいないことへの不安と強く関連していた。

### 3. 札幌市思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査

(13)自由記述について（問13関係） 調査回答者のうち179名が、自由記載に回答。10人以上が共通して使用していた単語に絞って分析を行い、下記のグループでまとめた。

#### 「仕事」「大変」「働く」「影響」「コロナ」「お金」「生活」

- 「1-1コロナウイルスの影響で経済的に苦しいという悩み」「1-2収入が少なく生活が苦しいという悩み」「1-3奨学金の悩み」についての自由記述がみられた。
- 具体的には、「コロナの影響で仕事が減り、生活に困窮している」ことや「奨学金の返済に不安を抱えている」という意見があった。

#### 「親」「相談」「受ける」「大学」「少ない」

- 「2-1親・家族に関する悩み」では、「母親と母親の交際相手からお金を搾取され続ける生活から逃げたい」「家族間で嫌なことをされたとき逃げる先を知らない」「家族が学生時代にSNSを通じて相手を募集した援助交際でつかまり、成人してから風俗で働き始めた」という意見があった。
- 「2-2ひとり親についての悩み」では、母子家庭の方から「1人親世帯への就業先や支援がもう少し強いものであれば、母も生きやすくなるの」という意見や、「シングルマザーなどの人々に対する支援を意識的にしていただけるとありがたい」といった意見があった。
- 「2-3相談窓口についての意見」では、「学生の頃、モラハラ、DVの男性とつきあったことがあり、親にも友人にも誰にも相談できずに辛かった時期があった。あのとき、支援を受けられる所を知っていて、助けを求められれば良かった」「気軽に相談できる人、LINEのように気軽にチャット相談できる窓口が普及すれば良い」「確実につながる相談窓口を設けてほしい」「相談窓口をもっとアピールして、認知度を上げた方が良く思う。」など多くの意見があった。
- 「2-4大学生による生活の悩み」では、「働きながら学生をしているが、金銭的に親に頼れず、昼の仕事に加えて夜の仕事も兼業しながら勉強している状況が辛い」「学生への支援が少ない」といった意見があった。

#### 「家族」「知る」「女の子」「関係」「分かる」「少し」「周り」「気」「問題」「行く」「嫌」「友達」「良い」

- 友人からのセクハラやいじめなど、「2-1周りの人との関係についての悩み」についての自由記述がみられた。

#### 「悪い」「学校」「職場」「女性」「支援」「アンケート」「困る」

- 「4-1学校生活に関する悩み」「4-2性に関する悩み・意見」「4-3 アンケートについての意見」についての自由記述がみられた。
- 特に性に関する悩み・意見では、「具体的で正しい性教育を学校で行うべきだ」といった意見や、「学校側ではLGBTQやセクマイの配慮が全くない」といった意見があった。

#### 「死ぬ」「つらい」「気持ち」「生きる」

- 「5-1現在の辛い気持ちについて」の自由記載がみられた。
- 具体的には「死にたいと思うことがよくある」「児童養護施設が辛い」といった意見があった。

#### 「不安」「今」「出来る」「怖い」

- 「6-1現在の不安な気持ち」についての自由記述がみられた。
  - 具体的には、「就職活動が不安であること」「(両親が)離婚調停中で不安、財産分与で学費がなくなりそうで勉強が面倒になった」「地下鉄で痴漢にあった経験があり、今(※)は満員電車にはない状況で安心できるが、元通りになった時にどう避ければ良いのか不安」といった意見があった。
- (※)コロナ禍で